

メディカルリンク

島外への転出者を減らす過疎化の対策として、沖縄県の離島5島がICT利活用によるオムロンの血圧管理サービス「メディカルリンク」を利用した高齢者の見守り・健康管理実証事業を実施。

背景

沖縄の離島では、現役世代が島外に移転することが多く、高齢者のみで生活する世帯が増加している。加えて、健康不安から島外に住む家族が高齢になった親を呼び寄せるケースも少なくない。そこで沖縄県は「一般社団法人 おきなわ長寿復興・医療イノベーション研究所」に委託して、「ICT利活用による離島高齢者等の見守り・健康管理実証事業」を進めた。

概要



- 「ICT利活用による離島高齢者等の見守り・健康管理実証事業」には、沖縄県伊平屋村、多良間村、伊是名村、渡嘉敷村、座間味村の5村の高齢住民138名が参加。参加者には血圧計贈呈式で家庭血圧計（オムロンHEM-7251G）が贈呈され、週5回以上、約半年間にわたり血圧を自己測定する。
- 血圧を測る度に測定値が3G回線を介してオムロンの血圧管理サービス「メディカルリンク」のサーバに自動送信。その情報を島内医療・介護従事者、琉球大学医学部、遠隔地在住家族が共有。参加者と遠隔地の家族から、これを導入する前と後の健康への意識や不安、島内に住み続ける気持ちの変化など聞き取り、システム導入による意識改善効果を評価する。
- 島内診療所医師、保健師、介護事業者、島外に住む家族が共有することで地域全体での見守りを実現、更には健康不安を解消することで人口流出を抑制する効果が期待できる。

アピールポイント

- バイタルデータをサーバ上で自己管理するウェブサービスは少ないが、血圧のデータを医療・介護従事者や遠方の家族と共有し、個人に対して最適な診療、あるいはリアルタイムで見守り、介入することを実現する仕組みは「メディカルリンク」が世界初。循環器専門のNPO hytek（高血圧改善フォーラム）からも監修、推奨を受けている。
- 事業継続中のため、最終評価には至っていないが、5島のうち、血圧測定に積極的な3島と消極的な2島に二極化していることがわかった。消極的原因を明確化したうえで、状況改善を図るよう介入し、参加者の意識改善効果を評価したい。

人

Key Person

- 琉球大学第三内科教授・大屋祐輔氏：かねてからオムロン血圧計のIT化に関心のあった教授は、このシステムの離島への導入を発案し、プロジェクトリーダーとして陣頭指揮を執った。
- オムロンコーリン(株)沖縄支店長・坂本忠良氏：沖縄県との折衝、各島の診療所への協力要請、キックオフ会議の準備などに尽力し、島民138名の参加実現に導いた。



大屋祐輔氏



坂本忠良氏